

看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定作業シート

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 骨格(検討用素案)

【考え方】

1. 基本的には、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会報告」(H22年度)を基にして、必要な事項を取捨選択して、「モデル・コア・カリキュラム」として再構築するものとする。
2. この間の看護学や医療、社会の進展を踏まえ、新たに盛り込むべき事項を加える。
3. 各大学での実行可能性を考慮して、「コア」としてすべての学生が共通して到達可能(評価可能)なものを精査する。

※モデル・コア・カリキュラムの大学教育における位置づけ:各大学は、モデル・コア・カリキュラムを参考としつつ、授業科目等の設定、教育手法や履修順序等は自主的に編成するものとする。  
 ※履修すべき学修時間数に占める割合:今後の本検討会及びワーキンググループで決定するモデル・コア・カリキュラムの分量に応じ、定める。(参考:医学教育(6年)約2/3、歯学教育(6年)約6割、薬学教育(6年)約7割)  
 ※モデル・コア・カリキュラムの性格:単なる修得すべき知識のリストではなく、修得した知識や技能を組み立てられることを目指すもので、学修成果基盤型教育を骨組みとし、学生が卒業時までまでに修得しておくべき実践能力を明確にして、客観的に評価できることを目指すもの。

大項目(案1)	大項目(案2)	大項目(案3)	大項目(案4)	医学教育モデル・コア・カリキュラム (H28年度改訂パブリックコメント案) 大項目	歯学教育モデル・コア・カリキュラム (H28年度改訂パブリックコメント案) 大項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム (H25年度改訂版) 大項目	看護学教育モデル・コア・カリキュラム 大項目案
看護系人材として求められる基本的な資質・能力				医師として求められる基本的な資質・能力	歯科医師として求められる基本的な資質・能力	薬剤師として求められる基本的な資質	看護系人材として求められる基本的な資質・能力
A 看護系人材として求められる基本的な資質・能力	基本事項	看護系人材として求められる基本的な資質・能力	プロフェッショナリズム	A 医師として求められる基本的な資質・能力 ※現行(H22年度)では「基本事項」	A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 ※現行(H22年度)では「基本事項」	A 基本的な事項	A 看護系人材として求められる基本的な資質・能力
B 社会と看護学 (医療、福祉、社会学等看護学の基盤たる隣接諸科学をできる限り広く学習)	社会と看護学 (医療、福祉、社会学等看護学の基盤たる隣接諸科学をできる限り広く学習)	社会と看護学 (医療、福祉、社会学等看護学の基盤たる隣接諸科学をできる限り広く学習)	看護系人材としての知識・看護実践能力	B 社会と医学・医療	B 社会と歯学	B 薬学と社会	B 社会と看護学
C 看護学一般(もしくは看護学基礎) (看護学概論、看護の目的論)	看護学一般(もしくは看護学基礎) (看護学概論、看護の目的論)	全人的に対象を捉える基本能力	問題解決能力	C 医学一般	C 生命科学	C 薬学基礎	C 看護学一般(もしくは看護学基礎)
D 対象理解に必要な専門基礎知識 (看護の対象論)	対象理解に必要な専門基礎知識 (看護の対象論)	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	コミュニケーション能力	D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	D 歯科用医療機器(歯科生体材料、歯科材料・器械)	D 衛生薬学	D 看護実践の基本となる専門基礎知識
E 看護実践に必要な専門知識 (看護の方法論)	看護実践に必要な専門知識 (看護の方法論)	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	チーム医療における協働	E 全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療	E 臨床歯学	E 医療薬学	E 多様な場における看護実践に必要な専門知識
F 臨地実習	臨地実習	特定の健康課題に対応する実践能力	ケアの質と安全管理	F 診療の基本	F シミュレーション実習(相互演習(実習)・模型実習) ※現行(H22年度)の「F臨床実習」より分離	F 薬学臨床 ※コアカリキュラムとは別に「薬学実務実習に関するガイドライン」を平成26年度に策定	F 臨地実習
G 看護学研究	看護学研究	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	社会から求められる看護の役割の発揮	G 臨床実習 ※「診療参加型臨床実習ガイドライン」(参考例)を含む	G 臨床実習	G 薬学研究	G 看護学研究と専門性の発展
H		専門職者として研鑽し続ける基本能力 JANPUでの検討資料より抜粋	科学的探究				
I		臨地実習	生涯にわたって研鑽し続ける姿勢				



全人的に対象を捉える基本能力				ヒューマンケアの基本に関する実践能力			根拠に基づき看護を計画的に実践する能力						特定の健康課題に対応する実践能力				ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				専門職者として研鑽し続ける基本能力		
到達目標2011				1)看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	2)実施する看護について説明し同意を得る能力	3)援助的関係を形成する能力	4)根拠に基づいた看護を提供する能力	5)計画的に看護を実践する能力	6)健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力	7)個人と家族の生活を査定(Assessment)する能力	8)地域の特性と健康課題を査定(Assessment)する能力	9)看護援助技術を適切に実施する能力	10)健康の保持増進と疾病を予防する能力	11)急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	12)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	13)終末期にある人々を援助する能力	14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	16)安全なケア環境を提供する能力	17)保健医療福祉における協働と連携をする能力	18)社会の動向を踏まえ看護を創造するための基礎となる能力	19)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	20)看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力
主担当	副担当	大項目(案1)	大項目(案2)	1生物学的存在としての人間理解	2生活体としての人間理解	3人間を取り巻く環境理解	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		JANPU案																					
佐々木	黒田 柳田	A	看護系人材として求められる基本的な資質・能力 基本事項 案1、案2の整理(A項目に何を入れたら良いか)を含めて、ご検討いただければと思います																				
叶谷	小山田 大湾	B	社会と看護学(医療、福祉、社会学等看護学の基盤たる隣接諸科学をできる限り広く学習)																				
内布	佐々木 渡邊	C	看護学一般(もしくは看護学基礎)(看護学概論、看護の目的論)																				
奈良間	柳田 大湾 澤井 渡邊 叶谷	D	対象理解に必要な専門基礎知識(看護の対象論)																				
亀井		E	看護実践に必要な専門知識(看護の方法論)																				
小山田	内布 奈良間	F	臨地実習 (黒田案)看護の知識・技術の統合と実践への適用																				
黒田	内布 亀井	G	看護学研究 (黒田案)看護の科学的探究と発展																				



看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目（案）

A列		B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当			大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースでの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういった能力を育成するかの例のメモ等
佐々木	黒田柳田		A	看護系人材として求められる基本的な資質・能力	1. プロフェッショナリズム 2. 看護学の知識と看護実践 3. 根拠に基づいた問題解決(対応?)能力 4. コミュニケーション能力 5. 保健医療福祉における協働 6. ケアの質と安全の管理 7. 社会から求められる看護の役割の拡大 8. 科学的探究 9. 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢					このAを目指してB以下の学習がされていくイメージ



看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目(案)

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういう能力を育成するかの例のメモ等
叶谷	小山田 大湾	B	社会と看護学 (医療、福祉、社会学等看護学の 基盤たる隣接諸 科学をできる限り 広く学習)	社会を形作る 文化と制度と健康の 関連を理解する能力	人々の暮らしを支える地域 や文化を理解する力	1. 生物学的存在としての人間理解	人間や健康を総合的にとらえ説明できる	健康の概念、ライフスタイル・ストレス・生活環境と健康の関連	Social capital
					社会システムと健康の関連 を考える力	2. 生活体としての人間理解	多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重する行動をとることができる	疫学・保健医療統計	学際的視野
					環境と健康の関連を考える 力	8) 地域の特性と健康課題を査定 (Assessment)する能力	・地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を把握する方法について説明できる ・学校や職場などの健康課題を把握する方法について説明できる	暮らしに影響する地域特性(地理的特性、歴史、規範・文化)	
					生命の意義について問い続ける 力	9) 看護援助技術を適切に実施する能力	・人的・物理的環境に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる	健康と環境、保健医療福祉制度・政策	
					人々の暮らしを支える社会 関係資本を理解する力	10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力	・健康増進に関連する政策と保健活動について説明できる	社会関係資本	
					国際化と健康の関連を考える 力	12) 慢性疾患および慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	・慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について説明できる	国際化の現状と課題	
					ケアの概念とケアにおける 看護学の関連を考える力	14) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	・保健医療福祉における看護の機能と看護活動の在り方について理解できる ・看護の質の管理及び改善への取り組みにちて理解できる	医療における倫理	
						15) 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	・自主グループの育成、地域組織活動の促進について理解できる ・個人・グループ・機関と連携して地域ケアを構築する方法について理解できる ・地域における健康危機管理及びその対策について理解できる	看護職の法的位置づけ(保助看法・人材確保法等)	
						17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力	・チーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした共同の在り方について説明できる ・保健医療福祉サービスの継続性を保障するためにチーム間の連携について説明できる	ケアの概念と看護学との関連	
						18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	・疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる ・社会の変革の方向を理解し、看護を発展させていくことの重要性について説明できる ・グローバル化・国際化の動向における看護の在り方について理解できる		



看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目(案)

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースでの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういった能力を育成するかの例のメモ等
内布	佐々木 渡邊	C	看護学一般 (もしくは基礎)		看護の対象である人間を多面的・包括的に理解することができる	1生物学的存在としての人間理解	・人間の生物学的な側面(呼吸、循環、神経運動機能、代謝、排泄、免疫、その他の機能及び環境との関係など)を理解する。 ・自然環境への適応や不適応、疾病の発生、治療への人間の生物体としての反応を学び、生命維持にとって必要な条件を理解する。	保留	□生存に関わる人体の構造と機能を理解し、説明することができる □心身の異常とそれに伴う身体/心身の反応を理解し、説明することができる □治療等に伴う人間の身体的/心身の反応を理解し、説明することができる □生命維持に関わる人体の構造と機能を理解し説明することができる
						2生活体としての人間理解	・人間の生活の様相を科学的に理解する。 ・生活と健康、疾病との関係を理解する ・疾病によって変貌する生活、俣それに適応する人間の在り様を学ぶ	保留	□環境や文化と人間の生活の関係について理解する能力 □生活と健康の関係を理解する能力 □病の体験が人間の生活に及ぼす影響を理解する能力 □ストレス、欲求と感情など心理的な要素と生活との関係を理解する □生命活動と生活の関係を理解する能力
						3人間を取り巻く環境理解	・自然環境や社会環境と呼応する人間の在り様を理解する	保留	保留
						1)看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	・人間や健康を総合的に捉え説明できる。 ・多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重する行動をとることができる。 ・人間の尊厳及び人権の意味を理解し、擁護に向けた行動をとることができる。	□人間の捉え方□健康の捉え方 □ライフサイクルと健康□社会と健康 □文化と健康□基本的人権の尊重 □看護実践に関わる倫理の原則 □患者の権利□権利擁護 □プライバシーへの配慮□個人情報保護 □看護職の倫理規定□守秘義務	□看護の視点から人間について総合的に捉え説明できる。 □人間のライフサイクルと発達について説明できる。 □健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。 □社会と健康、文化と健康の関連を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。 □多様な価値観や人生観を有している人々を尊重する行動をとることができる。 □基本的人権の尊重、患者の権利及び権利擁護について説明できる。 □患者の権利、プライバシーや情報の保護に配慮した看護の在り方を説明できる。 □看護職の倫理規定や看護実践に関わる倫理の原則を理解し、遵守できる。 □看護の対象となる人々の権利を尊重し、その擁護に向けた行動をとることができる。 □看護行為によって看護の対象となる人々の生命を脅かす危険性があることを説明できる。 □守秘義務について理解し、遵守できる。
						2)実施する看護について説明し同意を得る能力	・実施する看護の方法について、人々に合わせた説明ができる。 ・看護の実施にあたり、人々の意思決定を支援することができる。	□医療における自己決定権 □看護職の説明責任 □意思決定への支援 □インフォームド・コンセント □セカンド・オピニオン	□医療における自己決定権と看護職の説明責任について説明できる。 □インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明できる。 □実施する治療や看護に関する選択権について説明できる。 □実施する看護を説明する方法とその意義について説明できる。 □看護の対象となる人々の意思決定のために必要な情報を提供することができる。 □看護の対象となる人々の意思決定を指導のもとで支援することができる。 □実施する看護について指導のもとで説明し、同意を得ることができる。 □相手の理解力にあわせた説明をすることができる。
						3)援助的関係を形成する能力	・看護の対象となる人々と援助的コミュニケーションを展開できる。 ・看護の対象となる人々と援助的関係を形成できる。 ・看護の対象となる人々や集団との協働的な関係の在り方について説明できる。	□自己分析、自己理解 □コミュニケーションの原則と技術 □対人関係、相互作用□援助的関係の過程 □カウンセリングの基本と技術 □治療的コミュニケーション□ケアリングの考え方 □集団形成の過程□リーダーシップ □グループダイナミクス□グループ支援	□自己を分析し自己理解できる。 □コミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。 □看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。 □プロセスレコードなどを活用して、援助的関係を分析できる。 □カウンセリングの基本的な方法について説明できる。 □援助的関係におけるケアリングの考え方について説明できる。 □援助的関係形成の過程を理解し、援助的関係を形成できる。 □リーダーシップの考え方について説明できる。17 □集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。 □グループを形成する方法とそれを支援する方法について説明できる。
					14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	・保健医療福祉における看護の機能と看護活動の在り方について理解できる。 ・看護の質の管理及び改善への取り組みについて理解できる。	□保健医療福祉制度と法律□看護の機能 □組織論□看護の組織□看護体制 □看護ケアのマネジメント□看護と経営 □情報管理システム□看護の質評価 □看護の費用対効果□看護活動のPDCAサイクル	□保健医療福祉における看護の役割について説明できる。 □医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる。 □組織のなかでの役割分担、権限委譲の在り方について理解できる。 □保健医療福祉のなかでの情報管理システムについて理解できる。 □看護の質を評価する必要性とその方法について理解できる。 □看護管理における費用対効果の重要性について理解できる。 □看護活動をPDCAサイクルを用いて改善する意義と方法について理解できる。	
					16)安全なケア環境を提供する能力	・安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について説明できる。 ・感染防止対策について理解し、必要な行動をとることができる。 ・医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動をとることができる。	□リスクマネジメント □安全文化の形成 □安全性の基準 □医療事故の現状と課題 □医療安全対策 □医療器具・医薬品管理の安全対策 □感染防止対策 □標準予防策(Standard precaution) 35 □有害事象の予防(転倒・転落などの事故、褥瘡など) □医療による健康被害(薬害を含む) □インシデント(ヒヤリ・ハット)レポート	□リスクマネジメント、有害事象(転倒・転落などの事故、褥瘡など)の予防方法について説明できる。 □医療のなかで安全文化を形成し、チームとして取り組むことの意義について説明できる。 □医療安全対策など医療機関の取り組みと看護の活動・役割について説明できる。 □安全を脅かす要因、及び医療器具・医薬品の安全な管理や薬害防止、安全な医療環境を形成していく意義について説明できる。 □感染防止対策、標準予防策(Standard precaution)について理解し、実施することができる。 □医療事故の予防と発生時対応、発生後の分析と評価について説明できる。 □インシデント(ヒヤリ・ハット)レポートの目的を理解し、必要性について説明できる。	

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目(案)

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースでの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういった能力を育成するかの例のメモ等
内布	佐々木 渡邊	C	看護学一般 (もしくは基礎)		保健医療福祉の仕組みと関わる職種の機能を理解し、看護の役割と連携の基本を理解できる	15) 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主グループの育成、地域組織活動の促進について理解できる。</li> <li>・個人・グループ・機関と連携して、地域ケアを構築する方法について理解できる。</li> <li>・地域における健康危機管理及びその対策に関わる看護職の役割について理解できる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 地域ケアに関わる医療政策 <input type="checkbox"/> 集団の形成・発達 <input type="checkbox"/> 自立・自律支援 <input type="checkbox"/> 個人・グループ・機関との調整 <input type="checkbox"/> ケアネットワークづくり <input type="checkbox"/> 支援システムの構築 <input type="checkbox"/> 地域組織活動 <input type="checkbox"/> 地域ケアの体制づくり <input type="checkbox"/> 健康危機発生時の緊急対応 <input type="checkbox"/> 心的外傷後ストレス障害 <input type="checkbox"/> 災害看護活動 <input type="checkbox"/> 被災者に対する安全な環境	<input type="checkbox"/> 地域で活動する多様な集団やNPOなどの組織、及びそれらの活動について理解できる。 <input type="checkbox"/> ケアのネットワーク、支援システムの構築の方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 対象者に必要なケアについて、関連機関や支援者と連携・調整する方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域の健康を促進し、管理する方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 当事者グループの集団の特質や機能について理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域における組織や当事者グループを看護専門職者として育成し、支援する意義や方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域における日常的な健康危機管理の重要性と看護の活動・役割について理解できる。 <input type="checkbox"/> 健康危機発生後に生じる健康課題と看護活動の在り方について理解できる。 <input type="checkbox"/> 被災者及び被災集団への災害看護活動の在り方について理解できる。
						17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした協働の在り方について説明できる。</li> <li>・健康医療福祉サービスの継続性を保障するためにチーム間の連携について説明できる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> チーム医療 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉チーム員の専門性と相互の尊重 <input type="checkbox"/> チームのなかでの看護専門職の役割 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input type="checkbox"/> コンファレンスの運営方法 <input type="checkbox"/> 情報の共有 <input type="checkbox"/> 継続看護 <input type="checkbox"/> 在宅医療と社会制度 <input type="checkbox"/> 在宅医療推進と看護活動 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉機関の連携・協働 <input type="checkbox"/> ケアマネジメント <input type="checkbox"/> 家族を含めた対象者中心の連携 <input type="checkbox"/> 退院支援・退院調整 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの連携 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーションとの連携 <input type="checkbox"/> 地域保健・産業保健・学校保健との連携	<input type="checkbox"/> チーム医療、保健医療福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療のなかでの看護の役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> チーム医療のなかでの責務として、情報の共有と守秘義務、対象者を中心とするチーム医療の構築方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> チーム医療のなかでの、相互の尊重・連携・協働について説明できる。 <input type="checkbox"/> チーム医療のなかで効果的な話し合いをするための方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 在宅医療を推進するために、保健医療福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> ケアマネジメントやチームの連携方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 継続看護、退院支援・退院調整など、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 病院、保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、診療所、学校、職場などとの連携の必要性について説明できる。 <input type="checkbox"/> 同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導のもとで実践できる。 <input type="checkbox"/> チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導のもとで実施できる
						18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる。</li> <li>・社会の変革の方向を理解し、看護を発展させていくことの重要性について説明できる。</li> <li>・グローバル化・国際化の動向における看護の在り方について理解できる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 人口構成と疾病構造 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉の歴史と看護 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉に関する基本的統計 <input type="checkbox"/> 保健統計や歴史を踏まえた看護の展望 <input type="checkbox"/> 看護行政と看護制度 <input type="checkbox"/> 医療保険制度 <input type="checkbox"/> 診療報酬制度 <input type="checkbox"/> 国際看護活動 <input type="checkbox"/> グローバリゼーション・国際化の動向 <input type="checkbox"/> 看護職としての発展の方向性	<input type="checkbox"/> 人口構成と疾病構造、保健医療福祉に関する基本的統計から、健康や保健医療に関わる課題について説明できる。 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉制度、保健医療福祉政策の歴史などから、看護の現状と動向を説明できる。 <input type="checkbox"/> 社会政策や看護政策が看護の発展に影響を及ぼしてきたことを説明できる。 <input type="checkbox"/> 保健師助産師看護師法、医療法及び関連する法律と看護実践との関連について説明できる。 <input type="checkbox"/> グローバリゼーション、国際化のなかでの国際看護活動の意義について理解できる。 <input type="checkbox"/> 看護職の発展の方向性について自分なりの意見を持つことができる。
19) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組む重要性について説明できる。39</li> <li>・専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理していく重要性について説明できる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 看護の振り返り(Reflection)の方法 <input type="checkbox"/> 自己洞察 <input type="checkbox"/> 役割モデルの活用 <input type="checkbox"/> 批判的分析力 <input type="checkbox"/> 論理的思考 <input type="checkbox"/> 情報リテラシー(情報活用力) <input type="checkbox"/> 研究方法の活用 <input type="checkbox"/> キャリアマネジメント <input type="checkbox"/> 生涯学習とその機会 <input type="checkbox"/> 自己教育力	<input type="checkbox"/> 自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察の重要性について説明できる。 <input type="checkbox"/> 専門職としての成長に必要な批判的分析力、論理的思考力の意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護の課題を解決するために、情報リテラシー(情報活用力)を活用することができる。 <input type="checkbox"/> 専門職としてのキャリア発達の過程や生涯学習の意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 専門職としての自己管理や自己主張の意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 長期的展望に立ち自己学習計画をもつ意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 自己学習や自己教育力が専門職には重要な要件であることを説明できる。 <input type="checkbox"/> 指導のもとで自己評価及び他者評価を踏まえた自己の課題を見だし、取り組むことができる。						

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目(案)

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースでの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういった能力を育成するかの例のメモ等
奈良間	柳田 大滝 津井 渡邊 叶谷	D	看護実践の基本となる専門基礎知識	<p><b>対人関係の形成とコミュニケーション</b> 1) 対人関係の形成 2) 共感的(援助的)コミュニケーション</p> <p><b>ニーズを捉える</b> 1) 情報へのアクセス 2) 多様な情報のアセスメント 3) 対象の経験や望み(意向)を共有しながらニーズを捉える</p> <p><b>ケアの実施</b> 1) 目標を立てる 2) 方法を選択する 3) 実践する 4) 対象の経験や望み(意向)を看護過程につなげる</p> <p><b>ケアの評価</b> 1) ケアを振り返り評価する 2) ケアを改善する 3) 対象の本質的な望み(意向)に照らして評価・改善する</p>	<p>1. 生物学的存在としての人間理解</p> <p>2. 生活体としての人間理解</p> <p>3. 人間を取り巻く環境理解</p> <p>1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力</p> <p>2) 実施する看護について説明し同意を得る能力</p> <p>3) 援助的関係を形成する能力</p> <p>4) 根拠に基づいた看護を提供する能力</p> <p>5) 計画的に看護を実践する能力</p>	<p>・人間の身体の仕組みと機能を理解する能力 □人体の構造(解剖学) □人体の機能(生理学) □人体の防御システム □栄養と代謝 □人体の成長と発達 ・人間の心身の異常とそれに伴う反応を理解する能力 □病態と生体反応(病理学) □疾病学・診断学・治療学 □疾病と生体反応 □各発達段階の健康課題 ・治療に伴う人間の身体的・心理的反応を理解する能力 □治療学 □薬理学 他</p> <p>・生活体としての人間を理解する能力 □生活と健康 ・成長・発達過程にある人間を理解する能力 □人間の成長・発達段階 □成長・発達段階と健康 ・主体としての人間を理解する能力 □人間の多様な価値観・信条や生活背景 □生きる体験・病いの体験 □意向・欲求 □ストレス・コーピング 1～3を統合する視点 統合体としての人間(身体・精神・社会・スピリチュアル)</p> <p>・人的環境と関連付けて人を理解する能力 □相互作用・共感性 □援助的関係 □コミュニケーション □役割 □協働 □場(家庭・学校・職場・地域) ・物理的環境と関連付けて人を理解する能力 □住環境 □地球環境</p> <p>・人間や健康を総合的に捉える能力 ・多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重する能力 ・人間の尊厳及び人権の意味を理解し、擁護に向けた行動をとる能力</p> <p>・人の健康や生活のとらえ方、意向を共有し、ケアの目標や方法をともに考えて選択する能力</p> <p>・人との共感的な相互作用を形成する能力 ・人とのコミュニケーションを通して援助的な関係を形成する能力</p> <p>・根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し活用できる能力</p> <p>・分析の方法や共感的姿勢により、看護計画を立案できる能力 ・問題解決法やウエルネスの視点から看護計画を立案し展開できる能力 ・実施した看護実践を対象の視点を考慮して評価し、記録できる能力</p>	<p>「成長・発達過程と健康(支援)」=人間の成長・発達過程を健康の視点から支える(目的論) ・成長・発達段階に応じた健康状態の査定 ・成長・発達段階に特徴的な健康問題の査定 ・健康状態の改善による成長・発達の促進 「生活者としての健康(支援)」=主体として生きる生活者の健康せいかつ総合的に支える(対象論) ・生活者としての健康(健康課題・ウエルネス)の総合的査定 ・子どもと家族の生活の視点、 ・生活者である対象のニーズ(意向)把握と目標設定(共有) 「対人関係(相互作用)を通じた看護実践」=専門職として、人として結ぶ相互作用による情報収集・査定・計画・実践・評価の実践(方法論) ・対象との相互作用 ・共感的コミュニケーションによる看護過程 ・日常生活の支援に必要な看護技術 「健康問題に特徴づけられる」 ・ 医療に必要な看護技術</p>	<p>看護の目的論</p> <p>その人に必要な看護を考えられること。 できるできないにかかわらず、必要な看護は考えられるように</p>	

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目(案)

A列		B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当			大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースでの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういった能力を育成するかの例の メモ等
奈良間	柳田 大滝 澤井 渡邊 叶谷		D	看護実践の基本 となる専門基礎 知識			<p>6)健康レベルを成長発達に応じて査定(Assessment)する能力— (1)身体的な健康状態をアセスメントできる。</p> <p>7)個人と家族の生活を査定する能力</p> <p>9)看護援助技術を適切に実施する能力</p> <p>10)健康の保持増進と疾病を予防する能力</p> <p>11)急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p> <p>12)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</p> <p>13)終末期にある人々を援助する能力</p>	<p>・身体的な健康状態を査定できる能力 ・認知や感情、心理的な健康状態を査定できる能力 ・成長・発達段階に応じた身体面、認知や感情、心理社会的特徴と関連づけて健康状態を査定できる能力 ・環境と関連づけて健康状態を査定できる能力 ・各発達段階に特徴的な健康問題を理解し、必要な看護援助方法について説明できる能力(小児・母性・成人・老年等)</p> <p>・個人の生活を把握し、健康状態との関連を査定する能力 ・家族の生活を把握し、家族員の健康状態との関連を査定する能力</p> <p>・身体に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる能力 ・情動・認知・行動に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる能力 ・人的・物理的環境に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる能力</p> <p>・健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる能力 ・人の誕生から成長・発達、加齢までの生涯発達の視点を理解し、各発達段階における健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる能力 ・妊娠・出産・育児にかかわる看護援助方法について説明できる能力</p> <p>・急激な健康破綻をきたした人の全身状態を査定し、生命維持に向けた看護援助方法について説明できる能力 ・急激な健康破綻をきたした人と家族を理解し、回復に向けた看護援助方法について説明できる能力 ・精神的危機状況にある人の状態を査定し、回復に向けた看護援助方法について説明できる能力 ・必要な早期リハビリテーションを計画し、促進する看護援助方法について説明できる能力</p> <p>・慢性的な健康課題を有する人と家族の状態を査定し、疾病管理に向けた看護援助方法について説明できる能力 ・慢性的な健康課題を有する人と家族を理解し、療養生活の看護援助方法について説明できる能力</p> <p>・終末期にある人を総合的・全人的に理解し、その人らしさを支える看護援助方法について理解する能力 ・終末期における治療を理解し、苦痛の緩和方法について説明する能力 ・看取りをする家族の援助について説明できる能力</p>		

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目（案）

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういう能力を育成するか例のメモ等
亀井	柳田 大滝 澤井 渡邊 叶谷	E	多様な場における看護実践に必要な専門知識		<p><b>看護を提供する多様な場の特性に応じた看護を考える能力</b></p> <p>1) 看護を提供する場の特性 2) 看護を提供する多様な場に応じた看護実践</p> <p><b>地域ケアシステムにおける看護実践能力</b></p> <p>1) 地域ケアシステムの中に暮らす対象者と家族を理解する 2) 地域ケアシステムと看護 3) 地域ケアシステムを構築・推進する能力</p> <p><b>災害時の健康危機管理と看護実践能力</b></p> <p>1) 自然災害、人為的災害など、災害時の健康危機と看護について理解する 2) 災害時の安全なケア環境の提供について理解する</p>	<p>1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力</p> <p>2) 実施する看護について説明し同意を得る能力</p> <p>3) 援助的関係を形成する能力</p> <p>4) 根拠に基づいた看護を提供する能力</p> <p>5) 計画的に看護を実践する能力</p> <p>6) 健康レベルを成長発達に応じて査定 (Assessment) する能力</p> <p>7) 個人と家族の生活を査定 (Assessment) する能力</p> <p>8) 地域の特性と健康課題を査定 (Assessment) する能力</p> <p>9) 看護援助技術を適切に実施する能力</p> <p>10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力</p> <p>11) 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力</p>	<p>慢性・非可逆的疾患をもつ人の人権尊厳と権利擁護の能力</p> <p>慢性・非可逆的疾患をもつ人への看護の説明の能力</p> <p>慢性・非可逆的疾患をもつ人との援助関係を形成する能力</p> <p>慢性・非可逆的疾患のガイドラインやケアの指針を確認し、根拠に基づいた看護を提供する能力</p> <p>慢性・非可逆的疾患をもつ人に最適な時間・場所・方法で看護を計画的に実践する能力</p> <p>成人期にある人の健康と生活のアセスメント 老年期にある人の健康と生活のアセスメント</p> <p>高齢者と家族、介護者の生活をアセスメントする能力 (1) 個人・家族の価値観や文化を理解し、生活している人として捉えることができる。 (2) 個人の生活を把握し、健康状態との関連を査定 (Assessment) できる。 (3) 家族の生活を把握し、家族員の健康状態との関連を査定 (Assessment) できる。 (4) 健康課題を表出しない・できない個人とその家族を見出す必要性を理解できる。</p> <p>看護の対象者が生活する地域や場所の特性を踏まえた心身のアセスメント ・生活共同体としての地域 (コミュニティ) を理解し、看護の対象としての関心を持つことができる。 (または「生活共同体としての地域 (コミュニティ) を看護の対象として理解することができる。」) ・個人の健康に影響を与える地域の課題をアセスメントできる。 ・個人、家族のアセスメントをとおして、地域特性を推測し、潜在する健康課題を見出す方法について説明できる。 ・その地域でよりよく生活するために、必要な社会資源やサービスを査定 (Assessment) できる。</p> <p>高齢者のヘルスプロモーション、介護予防のための実践能力</p>	<p>カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)</p>	<p>災害看護、国際、グローバル</p> <p>地域包括ケアシステム</p> <p>看護管理</p> <p>チームビルディング 学生は参加させてもらう?</p>

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目(案)

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容 (知識・実技・姿勢)	どういう能力を育成するかの例のメモ等
亀井	柳田 大濱 渡邊 叶谷	E	多様な場における看護実践に必要な専門知識			<p>12) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力</p> <p>13) 終末期にある人々を援助する能力</p> <p>14) 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力</p> <p>16) 安全なケア環境を提供する能力</p> <p>17) 保健医療福祉における協働と連携をする能力</p> <p>18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力</p>	<p>□さまざまな慢性・非可逆的疾患の病態と症状</p> <p>□さまざまな慢性・非可逆的疾患の診断・検査</p> <p>□診療に伴う援助技術</p> <p>□症状のモニタリング</p> <p>□合併症の予防と早期発見</p> <p>□慢性・非可逆的疾患の合併症予防と早期発見</p> <p>□慢性・非可逆的疾患の増悪・進行予防</p> <p>□治療法(薬物・非薬物・放射線)の種類と効果の判断方法</p> <p>□リハビリテーションの方法と効果の判断方法</p> <p>□慢性・非可逆的疾患が生活に及ぼす影響</p> <p>□慢性・非可逆的疾患が個人と家族のライフサイクルに及ぼす影響</p> <p>□慢性・非可逆的疾患の自己管理への看護援助方法</p> <p>□症状マネジメント・疾病の管理</p> <p>□治療・服薬のアドヒアランス(遵守)</p> <p>□セルフケア行動の獲得と維持</p> <p>□ストレスコーピング</p> <p>□患者・家族教育</p> <p>□心身機能に障害をもって生きることへの支援</p> <p>□発達障害をもって生きることへの支援</p> <p>□回復のためのリハビリテーション支援</p> <p>□機能維持のためのリハビリテーション支援</p> <p>□ノーマライゼーション支援</p> <p>□専門職による支援</p> <p>□非専門職(ソーシャルサポート)による支援</p> <p>□社会資源の理解と支援</p> <p>□家族支援</p> <p>□ピアサポート(患者会・家族会)</p> <p>□諸制度を活用した多機関・多職種連携による支援</p>		

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目（案）

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列				
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容(知識・実技・姿勢)	どういう能力を育成するかの例のメモ等				
小山田	内布 奈良間	F	臨地実習		省察する能力								
					看護ケアの基本			看護師として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら実習を行う					
					チームの一員としてケアに参画する			多様な場で多様なニーズを持つ対象者に臨機応変に対応するための基礎的能力を育成するとともに、チームの一員として活動できる態度を養う		① 参画するケアの対象者のニーズを、臨床推論にもとづき説明できる。 ② 必要なケアを優先順位をつけて計画できる。 ③ 自分が行えるケアを明確にし、ケアに参加できる。 ④ 自分が観察・実施したケアを的確に記録できる。 ⑤ 対象者に提供されたケアを評価できる。 ⑥ ケアが提供される場の特性を説明できる。 ⑦ ケアを提供するチームの目標やメンバーを説明できる。 ⑧ チームメンバー(指導者等)へ報告・連絡・相談ができる。 ⑨ 患者の権利擁護が実践できる。			
								ヘルスアセスメント		① 呼吸状態のアセスメントができる。 ② 循環状態のアセスメントができる。 ③ 排せつの状態のアセスメントができる。 ④ 栄養状態のアセスメントができる。 ⑤ 水分出納バランスのアセスメントができる。 ⑥ 運動機能のアセスメントができる。 ⑦ 認知機能のアセスメントができる。 ⑧ 対象者を取り巻く社会環境をアセスメントできる。			
								日常生活行動への看護		① 対象者に合わせて食行動の支援ができる。 ② 対象者に合わせて清潔行動の支援ができる。 ③ 対象者に合わせて排せつ行動の支援ができる。 ④ 対象者に合わせて生活環境の整備の支援ができる。 ⑤ 安全に日常生活行動支援を行える。			
								基本的看護技術		治療活動への看護		① 対象者の状態から医師の指示が適切か判断できる。 ② 適切な指示に従い診療の補助技術を提供できる。 ③ 指示通りの治療が行われているか判断できる。 ④ 自身が有する知識・技術・経験・資格から、指示された行為を行えるか判断できる。 ⑤ 技術提供時の対象者の反応をアセスメントできる。	
											ケアマネジメント		① 対象者の状態、生活の場に応じて活用できる医療・介護資源(人材、制度等)を説明できる。 ② 資源利用に必要なプロセスを説明できる。 ③ 担当する対象者(集団)のケアマネジメントを計画できる。
											コミュニケーション		① ケアの対象者の成長発達段階、身体、精神状態、相互作用を踏まえてコミュニケーションの方法を変えることができる。 ② 非言語的コミュニケーションの実際を経験し、説明できる。 ③ コミュニケーションがケアにもたらす効果を説明できる。 ④ 自分自身のコミュニケーションの特徴を説明できる。
									① 成長発達段階に応じた看護を実践できる。(小児/成人/高齢者 等) ② 療養の場に応じた看護を実践できる。(急性期医療/慢性期医療/在宅医療 等) ③ 健康増進のための看護を理解できる。(母子保健、学校保健、産業保健 等) ④ 対象者が影響を受ける地域特性や地域の仕組み、地域の健康問題を理解できる。 ⑤ 健康維持のための諸活動に参加し、公衆衛生活動の基本を理解する				



看護学教育モデル・コア・カリキュラム 項目（案）

A列	B列	C列	D列	E列	F列	G列	H列	I列	J列
主担当	副担当		大項目	大項目の具体的な能力 (最終的には説明文になる)	コアカリとして文章化するに際しての留意点	到達目標2011での対応項目	具体的な能力・教育内容 (コンピテンシー・ベースの記載)	カリキュラムにおける項目に対応した教育内容(知識・実技・姿勢)	どういう能力を育成するかの例のメモ 等
黒田	内布 亀井	G	看護学研究と専門性の発展		1. 看護学における研究の必要性・意義 2. 看護学研究における倫理 3. 看護学研究をととした問題解決 4. 看護学の専門性の発展	1～3 全人的に人間をとらえる基本能力  1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2) 3)	<input type="checkbox"/> 多様な研究から示唆される人間理解のための方法論・視点  <input type="checkbox"/> 看護学研究に必要とされる倫理的配慮  <input type="checkbox"/> 情報の収集・情報システムとその活用 <input type="checkbox"/> 文献の検索方法 <input type="checkbox"/> 科学的根拠(Evidence) <input type="checkbox"/> 科学的根拠(Evidence)に基づいた実践の在り方 <input type="checkbox"/> 文献の批判的検討 <input type="checkbox"/> 基本的な研究方法 <input type="checkbox"/> 基本的な統計的分析方法 <input type="checkbox"/> 研究成果の解釈と活用 <input type="checkbox"/> 基本的な疫学・保健統計の知識 <input type="checkbox"/> 看護理論、看護研究、看護実践の関係		
						4) 根拠に基づいた看護を提供する能力	<input type="checkbox"/> 研究成果に基づくより良い看護実践・ケア環境とチーム体制整備の方法の検討 (あえて、「検討」とし、学生に探究させる姿勢や方法論を示す。どのような科目でも教育できるように許容範囲を広くおく。)		
						5)～17)	<input type="checkbox"/> 研究成果に基づくより良い看護実践・ケア環境とチーム体制整備の方法の検討 (あえて、「検討」とし、学生に探究させる姿勢や方法論を示す。どのような科目でも教育できるように許容範囲を広くおく。)		
						18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	<input type="checkbox"/> 保健統計や歴史をふまえた看護の展望・創造		
						19) 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	<input type="checkbox"/> 看護の振り返りの方法 <input type="checkbox"/> 自己洞察 <input type="checkbox"/> 役割モデルの活用 <input type="checkbox"/> 批判的分析力 <input type="checkbox"/> 理論的思考 <input type="checkbox"/> 情報リテラシー <input type="checkbox"/> 研究方法の活用 <input type="checkbox"/> 自己教育力 <input type="checkbox"/> キャリアマネジメント <input type="checkbox"/> 生涯学習とその機会		
						20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力	<input type="checkbox"/> 看護の定義とその歴史 <input type="checkbox"/> 看護学の歴史と発展過程 <input type="checkbox"/> 医療の歴史 <input type="checkbox"/> 看護実践と研究の連動と発展		



## 看護学教育モデル・コア・カリキュラムの作業手順

### [作業の前提]

○卒業時到達目標 2011 に示されている「能力 20」、「卒業時の到達目標」、「教育の内容」を基盤とし、看護系大学において育成される能力に必要な知識、態度、実技を選定する。

○一方で、全 250 大学の理解を目的とするため、

- ・大項目以降の項目立て（見出しの細分化）は、カリキュラムや科目を容易に想起できるネーミングとする。
- ・各項目の、「ねらい」（～を学ぶ。が基本形）と「学修目標」（～できる。が基本形）が、コンピテンシーを反映した内容とする。つまり、看護実践能力の修得を第一義とする看護学教育の特質を踏まえる。
- ・「コア」であるため項目はミニマムに絞るが、どのような教育内容が最低限教授されているかが広く社会に理解されることを目指した表記とする。

### [作業手順]

#### 1. 「看護職として求められる基本的な資質・能力」の検討

※暫定的には済み。コアカリの内容に応じて、最後に再度確認。

#### 2. 大項目の設定

※暫定的には済み。一部、名称が未確定であることもあり、最後に再度確認。

- 1) 看護実践能力の修得過程を踏まえ、モデル・コア・カリキュラムの枠組みを検討する。
- 2) 卒業時到達目標 2011 の内容が、どの大項目で学修されるか照合し、その内容がコアカリキュラムに反映されるよう、縦軸に「大項目」を、横軸に「能力 20」を置き、マトリックスの表を作成する。
- 3) マトリックスの表に示された能力・教育内容が、それぞれの大項目の中で過不足ないかを確認する。

#### 3. 中項目の設定

※今後の中心的な作業。なお、前回ワーキングの A 3 資料で用いた用語の「中項目」とは一致しない。

- 1) 大項目ごとに、育成される能力に必要な教育内容のまとまりになるよう、マトリックスにて示されている能力・教育内容をカテゴライズする。
- 2) 1) の見出し語となるよう、中項目を教育内容で表す。
- 3) 中項目の過不足がないかを確認する。

#### 4. 小項目・細項目

※今後の中心的な作業。現在、JANPU「看護学教育評価検討委員会（座長：内布先生）」において検討されている内容と整合性を図る。

- 1) 教育内容ごとに、どのような能力を身につけるのか、内容を概略する。

ねらい： ○○を学ぶ

- 2) 学修目標の設定

学修目標： △△ができる。

#### (5. 最終確認)

- ・全体の記載の分量のバランス
- ・表記の整合性
- ・用語の統一
- ・JANPU や指定規則、国試出題基準との包含関係